

2025 Bionic Jack Racing FIA-F4 選手権レースレポート



【FIA-F4 選手権シリーズ第8戦・第9戦・第10戦】

スポーツランド SUGO（宮城県：3.586 km）

9月20日（土）予選、決勝レース第8戦、第9戦：雨のち曇り／ウェット～ドライ 入場者数：9,700人

9月21日（日）決勝レース第10戦：晴れ／ドライ 入場者数：17,200人

#97 三浦 愛



#97 三浦 愛 Bionic Jack Racing

#98 IKARI



#98 IKARI Bionic Jack Racing

マシンは絶好調！ 波乱のレースで IKARI は3戦連続入賞果たす
壁にぶつかってしまった三浦愛。しかし、最後に進歩、収穫あり！

高木真一監督率いる Bionic Jack Racing は、今年も全14戦で競われる FIA-F4 選手権に、昨年に引き続き IKARI を、そして新加入の三浦愛を加え、2台体制で挑んでいる。第4大会の舞台は、アップダウンに富んだテクニカルコースとして知られる、スポーツランド SUGO である。

富士、鈴鹿で行われた2大会において、練習走行までは好調な IKARI だったが、予選での不運が決勝にも響き、納得のいく結果を残せずにいる。まさに「三度目の正直」ではないが、SUGO で流れを変えることが期待される。また、最速女子を継続中の三浦も、それだけでは飽き足らなくなっているはず。現時点でのポジションを上回れば、よりレベルが高く、クリーンなバトルが可能となる。そこでの本領発揮が期待される。



◆予選

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス第8戦 24 番手／第9戦 24 番手

#98 IKARI インディペンデントクラス第8戦 6 番手／第9戦 6 番手

ようやく東北地方は秋の趣を漂わせるようになり、練習走行が行われた木曜日、金曜日は久しぶりに「涼しい」と感じられた。もちろんドライコンディションもキープ。そんな中、IKARI が好調で、クラス単独のセッションにおいて木曜日は1分26秒794で7番手、金曜日は1分26秒016までタイムを詰めて4番手につけていた。「予選では25秒台に入りたいね」と IKARI。

その一方で、「グリップ感が足りない感じで」と語る三浦は苦戦中で、やはりクラス単独のセッションで、木曜日は1分25秒143で26番手、金曜日に1分25秒904で29番手に留まってしまう。

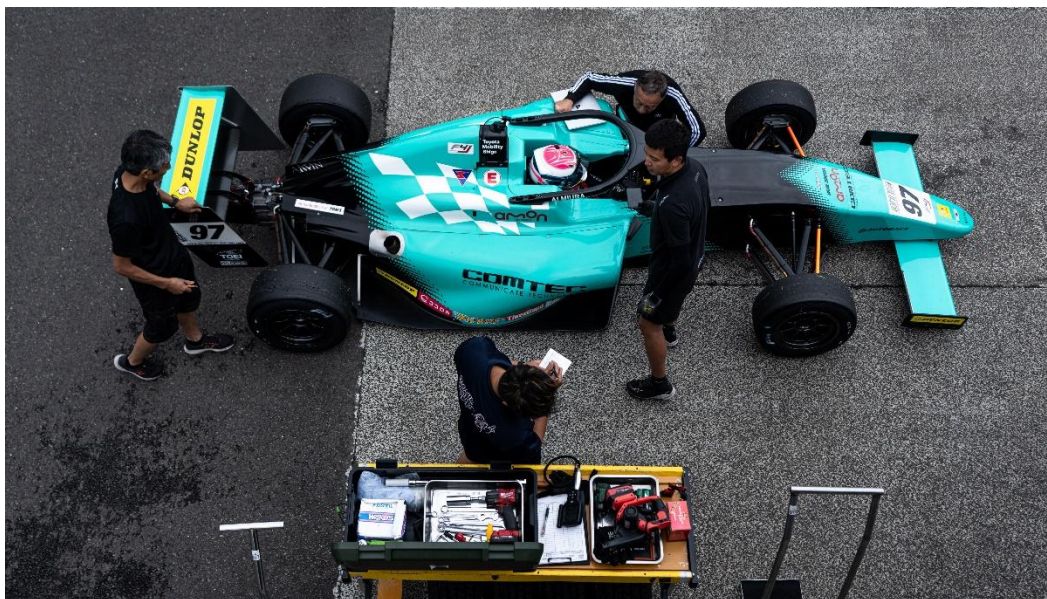
金曜日の練習中には上空に青空が広がっていたが、午後になると徐々に薄い雲がかかるように。土曜日になると天気予報で告げられていたとおり、早朝の SUGO は雨に見舞われてしまう。8時からスタートのチャンピオンクラス予選までにはやんだものの、当然まだ路面は濡れたまま。路面温度もより低くなっていたため、ウォーミングアップを入念に行なっていた三浦は計測3周目には1分34秒968を記すも、その直後に赤旗が。

再開までの時間は短かったものの、その後なかなか1分35秒を切れず、ラストアタックでようやく1分34秒779にまで短縮。だが、トップは1分32秒にまで到達しており、ベストタイム、セカンドベストタイムとも24番手と、今季ワースト順位となってしまう。

15分後に行われたインディペンデントクラス予選は、若干ではあったものの、路面状態が周回を重ねるごとく向上していった。IKARI の計測1周目は1分39秒台だったが、6周後には1分35秒台に到達。勝負どころとなったラスト周において、1分35秒296、1周クールダウンを挟んで1分35秒385をマークした結果、トップから1秒と遅れずベストタイム、セカンドベストタイムともに6番手につけていた。

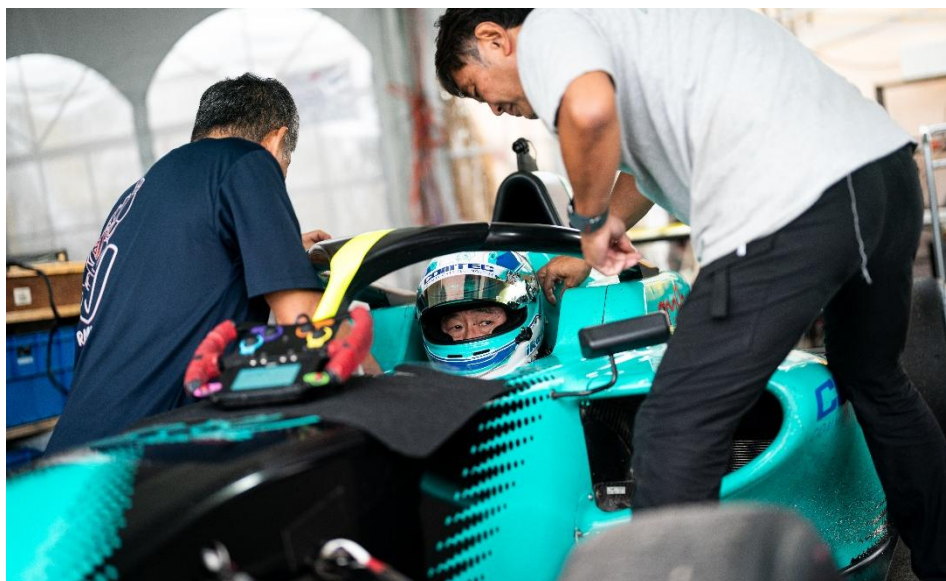
◇三浦愛

「トップとは 2 秒以上差があるし、前ともだいぶ離れちゃったので、何かつらいところにいるな、って気がしています。自信を失いかけていますが、鈴鹿まで比較的上り調子というか、ペースがトップと近づいてきていたので、ここに来てこれだけの差がある、しかも SUGO は短いサーキットなのに……。どうにかしなければいけないところがあるけれど、今のところ見えていません。自分の経験値の中ではグリップをあんまり感じられないんですけど、そういう車なのか、走らせ方なのか。この車の理解度が私もそこまで深くないので、自分の乗り方が合わせて切れていないのか。ちょっと今、悪い状況で全然噛み合っていない。でも、精いっぱい走るしかないんで、なんとかひとつでも上がれるように頑張ります」



◇IKARI

「ラインはどんどん乾いていったんですけどね、いやまあ、気持ちの問題が。車はすごく操作しやすかったし、もうちょっと踏まなきゃって感じで（苦笑）。3回、引っかかったから、10 周のうち 7 周は、最初の 2、3 周はタイヤを温めていたから、4 周は頑張れたと。あと 1 秒、どこにあるのか探ります。次のレースはドライだと思うので、ドライだったら昨日のような走りができればいいし、もしレインだったら、ロガーと映像をよくみて、遅いところを治したいと思います。とにかく完走目指して、頑張ります」



◆決勝レース第8戦

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス 26 位

#98 IKARI インディペンデントクラス 7 位

今大会は3レース開催。第8戦と第9戦の決勝グリッドは予選で決められたが、第10戦は第8戦のベストタイム順で決まる。当然、バトルも重要であるが、一発も決める必要のある一戦でもあった。予選の前に見舞われた雨は再び降ることなく、また SUPER GT の公式練習後とあってレコードライン



上は完全に乾いているものの、それ以外はしっとり濡れたまま。左右のグリッドのイコールコンディションを保つため、セーフティカー(SC)スタートとなった。

2周のSC先導の後、ホームストレートのグリーンシグナル点灯で、バトルが開始。オープニングラップのうちに三浦はひとつ順位を上げて23番手に。その後もバトルを繰り返すも、練習中からのグリップ不足に悩まされ、順位を上げることが許されず。逆に1コーナーでかわされる展開が続いた。14周目からSCが入って隊列は詰まり、リスタートが許されればチャンスが生じたかもしれないが、SC先導のままチェッカーが振られたこともあり、26位でのゴールがやっと。ついに最速女子の座も明け渡すことになった。

インディペンデントクラスのIKARIは、ポジションキープとなる6番手からバトルモード突入となるも、後方からチャージを受ける展開となっていた。そんな中、6周目の最終コーナーで痛恨のシフトミスがあり、1台の先行を許してしまう。終盤に再逆転を狙うも、SCが入ったことで、それもままならず。7位でのフィニッシュとなった。

◇三浦愛

「自分で走っていても『ペース悪いな』と感じました。最終コーナーの登ってくるところで追いつかれて、自分としてはスピンしそうなぐらい行って、一生懸命走っていたんですけど、なかなか……。最終コーナーで簡単に追いつかれちゃうので、1コーナーで刺されまくりました。木曜日からどんどん悪くなっていく感覚です。対策はしているんですけど、何か根本的なところが、セットチェンジじゃないところかもしれません。今まで行けていたところが行けなくなって、ちょっと迷走中です……」



◇IKARI

「シフトミスしちゃって、最終コーナーで。4速で走っているつもりが5速になっていて、間違えて6速に入れたら加速しなくて、前に行かれちゃいました。次の周から直して追いかけようと思ったけど、なかなか追いつけなくて、『すいません』って感じでした。残念です」



◆決勝レース第9戦

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス 20 位

#98 IKARI インディペンデントクラス 7 位

第9戦は、土曜日のレーススケジュール最後に行われた。再びSCスタートでの開始となったのは、SUGOの後方グリッドは坂道発進の上、最終コーナーにも達している。そのイン側がまだ濡れていたことで、左右グリッドの公正さを保つためだった。なお、3レース開催の今大会はタイヤ2セット使用可能とあって、三浦、IKARIとも第8戦に続き、ここでニュータイヤを選択していた。

SCの先導は再び2周。ポジションキープの24番手からレース開始となった三浦だったが、前も後ろも離れぬ、完全バトルモードで周回を重ねていく。まわりは血気盛んな若手ばかり、少しも気の抜けない状態が続く中、7周目のシケインで前方の車両に接触が。これに巻き込まれずに済んだことで20番手に浮上する。しばらくは後続がぴたりと続く展開が続いたが、終盤には振り切ることに成功。結果、4ポジションアップを果たした格好だ。

IKARIもポジションキープの6番手からバトルを開始、後方から絶えずプレッシャーをかけられる状況だったものの、必死にガードを固め続けていた。しかし、最終ラップの1コーナーでポジションダウン。7位でレースを終えた。



◇三浦愛

「ニュータイヤを入れたので、特にこのレースはガンガン行こうと思っていたんですが、バトルがいろんなところで起きたので、自分がセットアップした部分も、多少いい方向に行ったのかなと思う、いろんなことが噛み合ったレースになりました。ただ、まだペース的にちょっと足りない、特に最終コーナーが全然登っていかないので、そこがセット



でどうなるものか、もう少し見極めたいところです。明日に向けて少しはデータも収穫できたので、セットチェンジをいい方向にできるようにしたいです。明日のポジションはチャンピオンクラスのいちばん後ろですが、たぶん次もバトルがあると思うので、少しでも順位を上げられるように頑張ります」

◇IKARI

「馬の背で後ろからドーンと突かれて、ちょっと火が着いたんですけど、最後あっさり1コーナーでアウトから抜かれました。でも、わかり合っている人なので、やってもその程度、お互いね。楽しいレースでした。こっちはニュータイヤで行ったのに、向こうは中古だし、完全にバカにされました（苦笑）。明日は12番手なんで、スタートが。今に賭けたんですけねえ」



◆決勝レース第 10 戦

#97 三浦 愛 チャンピオンクラス 25 位

#98 IKARI インディペンデントクラス 10 位



日曜日の 9 時にスタート進行開始の第 10 戦もまた、SC スタートとなった。土曜日の晩にまた雨が降り、路面を濡らしていたからだ。とはいえ、文字どおり秋晴れとなって、レコードラインはもう乾いていた。なお、第 8 戦で記されたベストラップにより、三浦は 29 番手、IKARI はクラス 12 番手からのスタートとなっていた。

引き続き SC の先導は 2 周。抜かれるプレッシャーから解放された三浦は、ひたすら前を追いかけていく展開に。その甲斐あって、6 周目にはひとつポジションをアップ、10 周目には先行する車両 2 台の接触によるリタイアで、26 番手に上がる。その後、2 周に及ぶ SC 先導があったものの、リスタート後も前を果敢に攻め立てる。そして最終ラップに 1 台をパス。25 位でチェッカーを受けていた。

IKARI もまた、攻め続ける展開に。とはいえ、SC が出るまではなかなか抜けずにいたが、リスタート後にクラストップを争っていた車両がクラッシュしてリタイア。さらに 15 周目のオーバーテイクによって 10 番手に躍り出る。なおも前を追いかけたが、かわすまでには至らず。それでも貴重な 1 ポイントを加え、このレースウィークすべて入賞を果たしていた。

次回第 5 大会は、10 月 17～18 日に九州のオートポリスで開催される。シリーズも終盤戦、三浦、IKARI ともに悔いの残らぬレースを期待したい。

◇三浦愛

順位はちょっと上げたんですが、レース的にはなかなか抜けなくて厳しかったですけど、ようやくペース的にはまわりと同じように走れました。このレースウィーク、いろいろ悩んじゃいましたけど、自分たちが感じてマシンに反映してきたことが、間違った方向ではなかったという意味では、すごくいいデータが獲れたレースでした。とにかく、いろんな意味で、いい収穫のあったレースで、結果は伴わなかったんですけど、少しずつ進歩はしているんだな、っていうのを感じられたので、これを次、最終戦で結果につなげたいと思います」



◇IKARI

「追いつくんですけど、抜くまでにはいかない。たまたまりスタート後に、馬の背で前の車が減速したので、僕が前に行かせてもらいましたけど。その後も前にいた方を追いかけましたが、周回数が足りなかったです。まあ、しょうがないかな、という感じでした。今回はせっかくな車作ってもらったのに、ブレーキバランスを自分で試していて、それが全てで、こんなところを走っていました。次戦、また頑張ります。レースは本当に楽しかったです、車がすごく良かったので」

